

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)城東テクノ新築工事	階数	地上3F
建設地	大阪府枚方市招提田近二丁目	構造	S造
用途地域	工業専用地域、防火地区指定なし	平均居住人員	20人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,450時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年6月 予定	評価の実施日	2022年5月27日
敷地面積	2,377 m ²	作成者	住友林業株式会社 東原大輔
建築面積	1,287 m ²	確認日	2022年5月27日
延床面積	2,639 m ²	確認者	住友林業株式会社 丸谷周平



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.6

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.5

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.4

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.6

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.1

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項

総合	その他
Q1(室内環境)からLR3(敷地外環境)までの6つの項目をバランスよく向上させ、総合的に環境性能に配慮した建築物とした。	特に無し
Q1 室内環境 開口部は自然換気が十分確保できる大きさとし、快適な室内環境となるように配慮している。	Q2 サービス性能 維持管理に配慮した設計、バリアフリーへの配慮など、建物の機能性を高めるとともに、耐用年数の長い配管材料を採用するなど耐用性・信頼性に配慮している。
Q3 室外環境(敷地内) 道路境界を中心に中高木を植樹するなど、自然に触れる環境をつくりまちなみの配慮している。	LR1 エネルギー 高効率空調機、LED照明等を導入し、省エネルギーに配慮し環境負荷の低減を図っている
LR2 資源・マテリアル 節水水栓、節水便器やリサイクル材を導入し省資源に配慮している。	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ を低く抑えることにより、長年にわたり環境負荷を軽減し地球温暖化の防止に寄与できる建物となるよう計画。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

R4-0034

Osakafu-新築・既存 2018V1.0

【建物概要】	建物名称	(仮称)城東テクノ新建屋工事					
	建設地	大阪府枚方市招提田近二丁目					
	用途/区分	事務所					
【評価結果】	CASBEE 総合評価					B+	
①	CO2削減					4	
②	みどり・ヒート アイランド対策					3	
③	建物の断熱性					4	
④	エネルギー削減					4	
⑤	自然エネルギー直接利用					○	
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	○	風力	—	地熱	—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—

エネルギー消費量の報告

【評価項目】			
項目	評価内容	スコア	評価
① CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価	3.7	4
② みどり・ヒートアイランド対策			
生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価	3.0	3
敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価	2.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価	2.0	
③ 建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価	4.0	4
④ 設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価	3.7	4
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価	4.0	○
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。	報告する 報告しない	報告しない

その他

	技術の名称	考慮事項
先進的技術の導入		
特に配慮した事項	太陽光発電、高効率空調機、LED照明等を導入し、省エネルギーに配慮し環境負荷の低減を図っている	